

はが

あの日を忘れない!!

－ 波賀「1.17のつどい」－



灯ろうの前で
祈りをささげる

1月17日(土)午前5時46分、メイプル福祉センターにおいて、あの阪神淡路大震災の時刻に合わせ、竹筒に灯りをともし、尊い命を落とされた皆様のご冥福をお祈りしました。

波賀でのつどいは今年で3回目。「神戸へは行けないので、近くでお祈りできてうれしい」との参加者の声が続いています。黙とうをささげたあと、ボランティア連絡会の協力で豚汁をいただきました。今年は参加者の名前を記載しメモリアルウォーク参加者が神戸へ届けました。

また、震災のビデオを上映し、当時の悲慘な出来事や様々

なボランティアが活躍したと、そして人と人とのつながりがとても大切であることを再確認しました。

ろつそく作りや竹筒の提供、竹筒並べ、炊き出し準備などたくさんボランティアの協力で実現したつどいです。

あの震災の教訓とたすけあいの気持ちを風化させないよう、宍粟市社協としてこのつどいを今後も続けていきたいと思っています。

(波賀支部 坂本 幸子)



1/14 約200個のろうそくが完成しました
(ボランティア16名)

1/16 竹筒約150本並べました
(ボランティア9名)



ちくさ

今年で10年

雪遊びボランティアが活躍



児童・生徒と保護者約700人が参加

2月2日(月)から6日(金)までの5日間、姫路市小・中学校特別支援学級の子どもたち、ちくさ高原スキー場を訪れ、雪だるま作りやスノーボードで「雪遊び」を楽しみました。

特別支援学級とは、小中学校等の中で、教育上特別な支援を必要とする児童や生徒のために置かれた学級です。

姫路市内のライオンズクラブ協賛のもと、姫路特別支援教育研究会より社協が雪遊び応援ボランティアの依頼を受けて今年で10年目を迎えます。

千種高校ボランティア部の生徒や一般の方へ呼びかけ、また、社協職員がボランティア休暇を活用し、延べ28人が連日に渡り協力しました。

「何かお手伝いがしたいと思って」、「子どもたちの笑顔に寒さも吹き飛びます」など、ボランティアとともに、今年も千種の白銀を体験した子どもたち。

グレンデには笑顔や歓声があふれ、冬山の大自然を満喫した様子でした。

(千種支部 春名 豊滋)



ボランティアとともに
銀世界を楽しむ子どもたち